

I 調査結果の概要

1 平成21年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量の動向

作付（収穫）面積は、切り花類で1万6,500ha、球根類で538ha、鉢ものの類で1,870ha、花壇用苗ものの類で1,607haとなっており、前年産に比べてそれぞれ340ha（2%）、29ha（5%）、93ha（5%）、33ha（2%）減少した。

出荷量は、切り花類で45億5,100万本、鉢ものの類で2億6,880万鉢となっており、前年産に比べてそれぞれ1億8,300万本（4%）、1,520万鉢（5%）減少したが、球根類は1億6,620万球で前年産に比べて900万球（6%）増加、花壇用苗ものの類は7億7,500万本で前年産並みであった。

表1 平21年産花きの類別作付（収穫）面積及び出荷量（全国）

類別	作付(収穫)面積	出荷量	前年産対比	
			作付(収穫)面積	出荷量
	ha	万本(球・鉢)		
切り花類	16 500	455 100	98	96
球根類	538	16 620	95	106
鉢ものの類	1 870	26 880	95	95
花壇用苗ものの類	1 607	77 500	98	100

- 注：1 主産県を対象に調査を実施しており、全国値については主産県の結果を基に推計した（以下の表について同じ。）。
- 2 切り花類、鉢ものの類及び花壇用苗ものの類の値は、調査品目以外の「その他品目」を含んだ合計である（以下の表について同じ。）。
- 3 球根類及び鉢ものの類は、収穫面積である。
- 4 出荷量の単位は、切り花類及び花壇用苗ものの類が万本、球根類が万球、鉢ものの類が万鉢である。

2 類別・品目別の作付（収穫）面積及び出荷量の動向

(1) 切り花類

作付面積は1万6,500haで、生産者の高齢化等により前年産に比べて340ha（2%）減少した。品目別にみるとゆり及び切り葉が増加したが、きく、カーネーション等が減少した。

出荷量は45億5,100万本で、前年産に比べて1億8,300万本（4%）減少した。

なお、品目別にみた出荷量の構成割合は、きくが38%を占め、次いでカーネーションが8%、ばらが7%となっており、この3品目で全体の約5割を占めている。

図1 切り花類の品目別出荷量割合

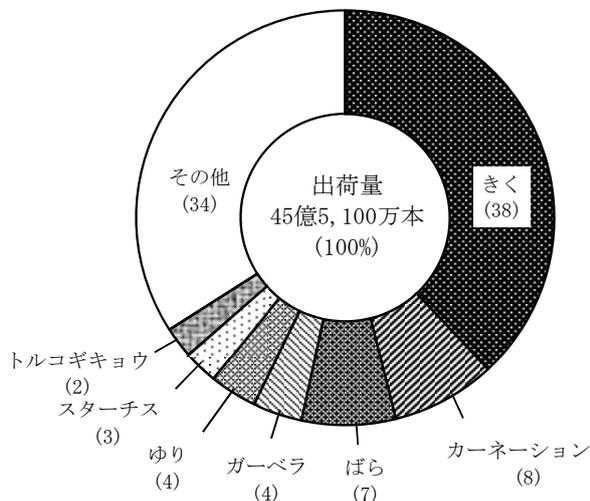


図2 切り花類の作付面積と出荷量の推移

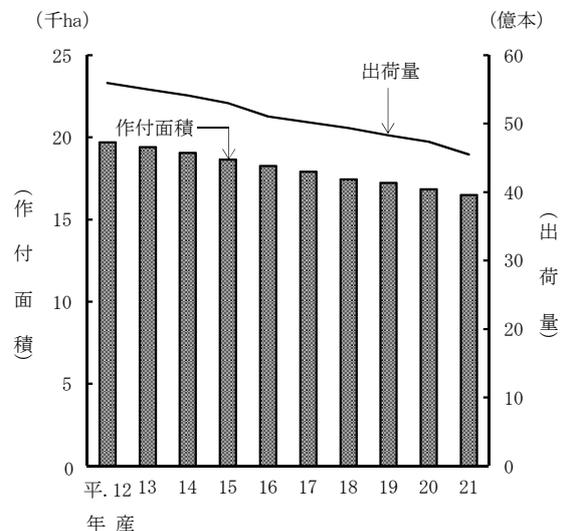


表2 平成21年産切り花類の作付面積及び出荷量（全国）

単位：%

品目	作付面積	出荷量	前年産対比	
			作付面積	出荷量
切り花類	16 500	455 100	98	96
うちき	5 420	173 100	98	97
輪ぎく	2 942	94 190	97	96
スプレイぎく	796	28 650	102	101
小ぎく	1 682	50 270	99	96
カーネーション	405	36 720	98	95
ばら	457	33 070	96	95
宿根かすみそう	260	6 150	97	101
洋ラン類	172	2 120	97	96
スターチス	212	11 960	100	100
ガーベラ	98	17 440	99	100
トルコギキョウ	462	10 950	99	98
ゆり	869	16 750	101	98
アルストロメリア	92	6 510	97	96
切り葉	768	17 720	103	104
切り枝	3 739	22 930	94	94

ア きく

作付面積は5,420haで、愛知県等で減少したことから、前年産に比べて112ha（2%）減少した。

出荷量は17億3,100万本で、前年産に比べて6,100万本（3%）減少した。これは、作付面積の減少等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が28%を占め、次いで沖縄県が18%、鹿児島県が7%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

また、品目別にみた出荷量の構成割合は、輪ぎくが54%で最も高く、次いで小ぎくが29%、スプレイぎくが17%の順となっている。

品目別の作付面積をみると、輪ぎく及び小ぎくは減少したが、スプレイぎくは増加した。

図3 きくの都道府県別出荷量割合

図4 きくの品目別出荷量割合

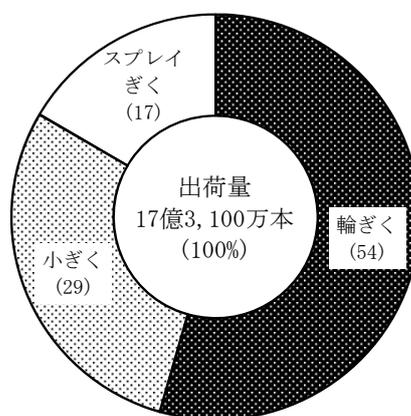
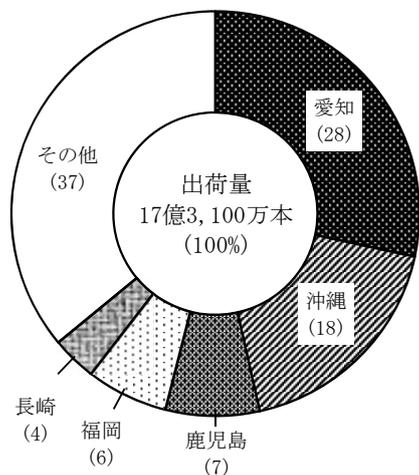


図5 きくの作付面積と出荷量の推移

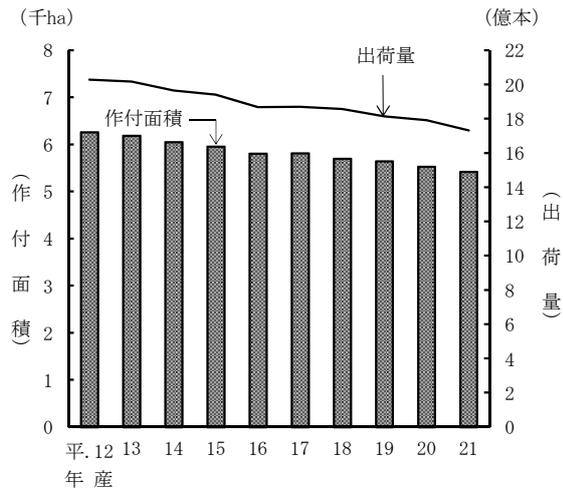


図6 輪ぎくの作付面積と出荷量の推移

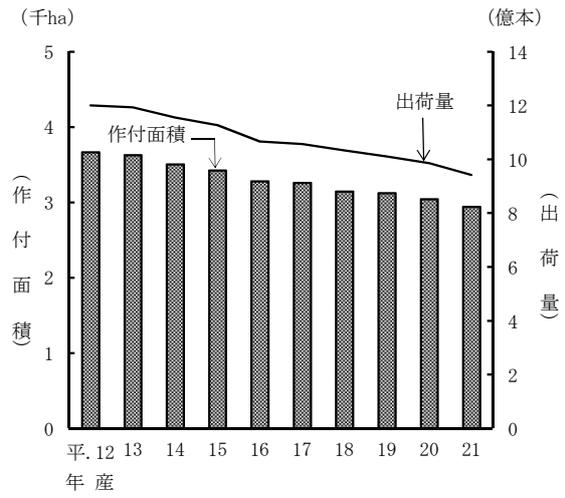


図7 スプレィぎくの作付面積と出荷量の推移

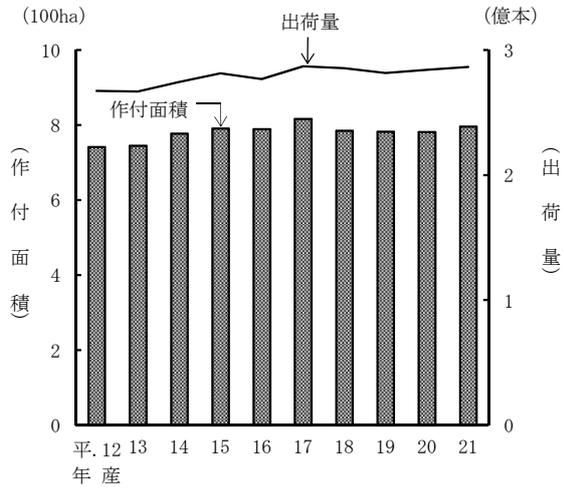
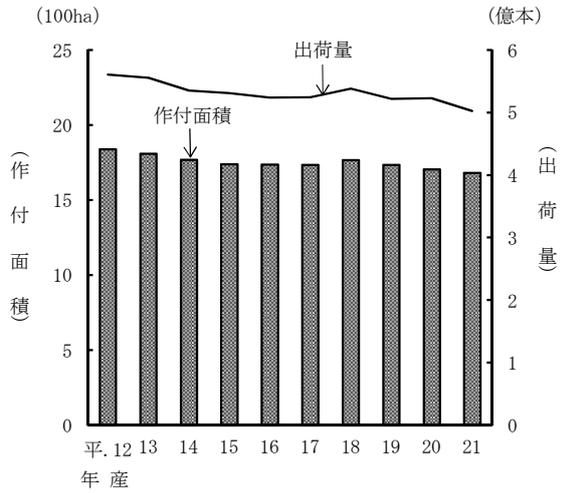


図8 小ぎくの作付面積と出荷量の推移



イ カーネーション

作付面積は405haで、愛知県等で減少したことから、前年産に比べて7ha（2%）減少した。

出荷量は3億6,720万本で、前年産に比べて2,060万本（5%）減少した。これは、夏期の天候不順による影響等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県が19%を占め、次いで愛知県が16%、兵庫県が11%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

図9 カーネーションの都道府県別出荷量割合

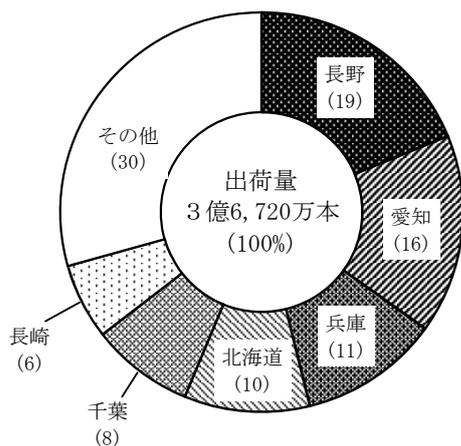
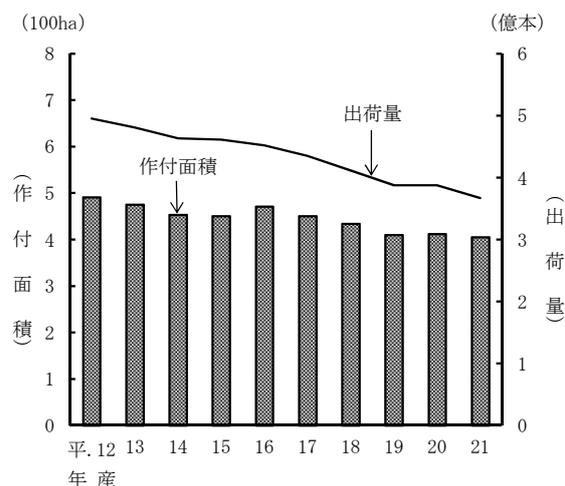


図10 カーネーションの作付面積と出荷量の推移



ウ ばら

作付面積は457haで、愛知県等で減少したことから、前年産に比べて17ha（4%）減少した。

出荷量は3億3,070万本で、前年産に比べて1,670万本（5%）減少した。これは、作付面積の減少等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が14%を占め、次いで静岡県が9%、福岡県及び山形県が6%、神奈川県が5%となっており、この5県で全国の約4割を占めている。

図11 ばらの都道府県別出荷量割合

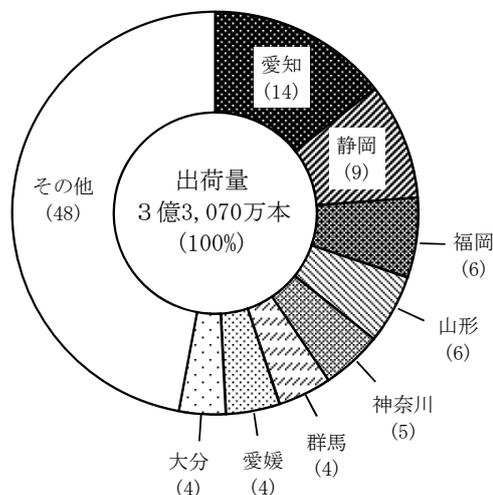
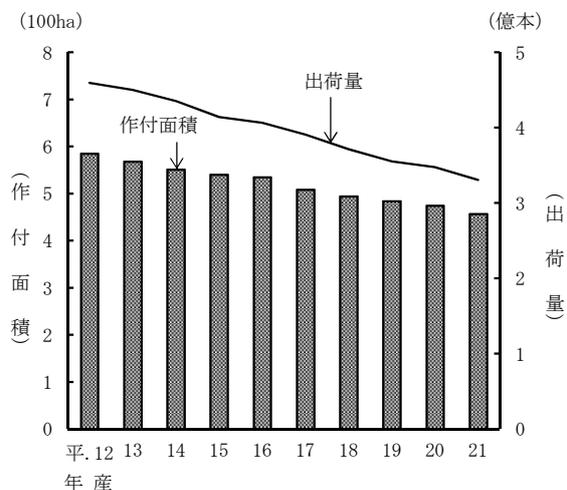


図12 ばらの作付面積と出荷量の推移



エ トルコギキョウ

作付面積は462haで、福島県等で減少したことから、前年産に比べて4ha（1%）減少した。

出荷量は1億950万本で、前年産に比べて190万本（2%）減少した。これは、作付面積の減少等による。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県が13%を占め、次いで熊本県が10%、福岡県が9%となっており、この3県で全国の約3割を占めている。

図13 トルコギキョウの都道府県別出荷量割合

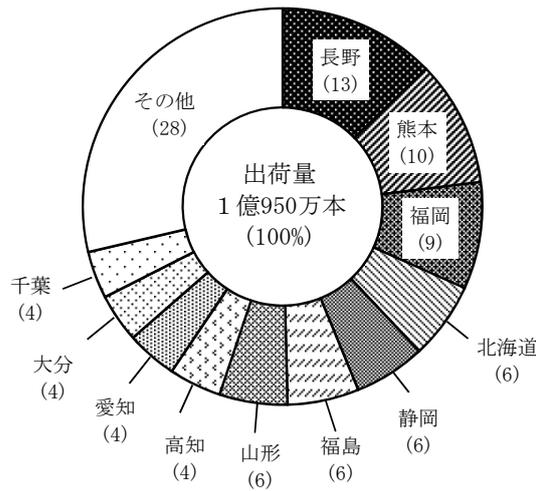
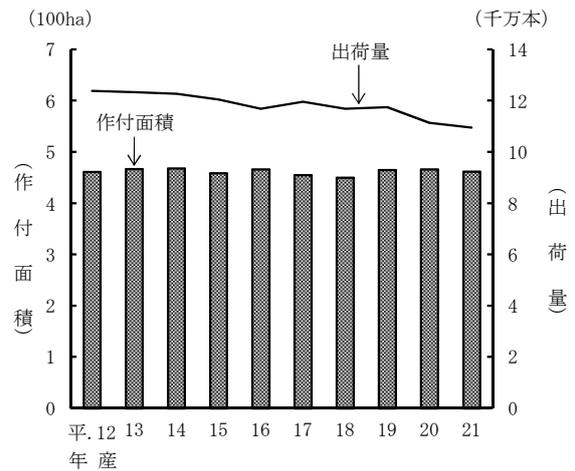


図14 トルコギキョウの作付面積と出荷量の推移



オ ゆり

作付面積は869haで、新潟県等で増加したことから、前年産に比べて7ha（1%）増加した。

出荷量は1億6,750万本で、前年産に比べて330万本（2%）減少した。これは、作付面積が増加したものの、夏期の天候不順による影響や病害の発生等があったことによる。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、埼玉県が16%を占め、次いで高知県が13%、新潟県が10%、鹿児島県が8%となっており、この4県で全国の約5割を占めている。

図15 ゆりの都道府県別出荷量割合

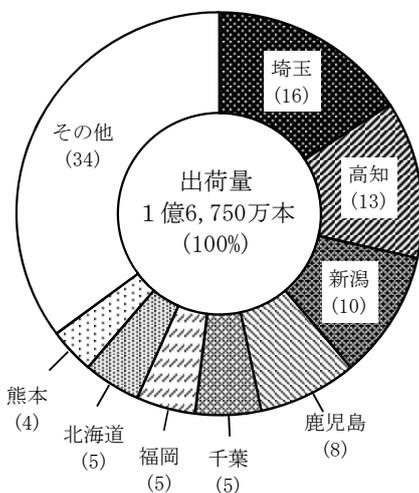
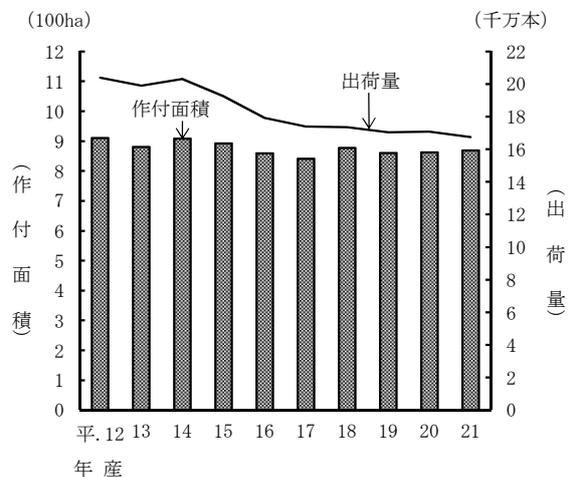


図16 ゆりの作付面積と出荷量の推移



(2) 球根類

収穫面積は538haで、生産者の高齢化等により前年産に比べて29ha（5%）減少した。

出荷量は1億6,620万球で、前年産に比べて900万球（6%）増加した。これは、収穫面積が減少したものの、規格の小さい球根への切り替え等があったことによる。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、鹿児島県が21%を占め、次いで新潟県が18%、富山県が17%となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

図17 球根類の都道府県別出荷量割合

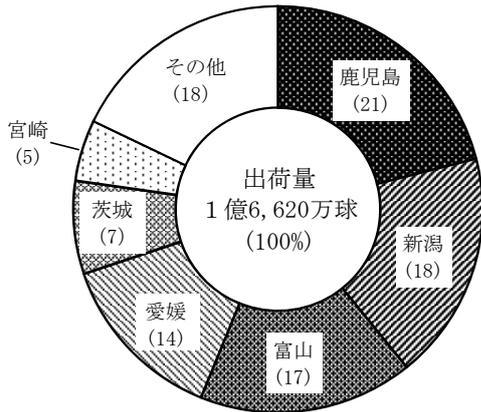
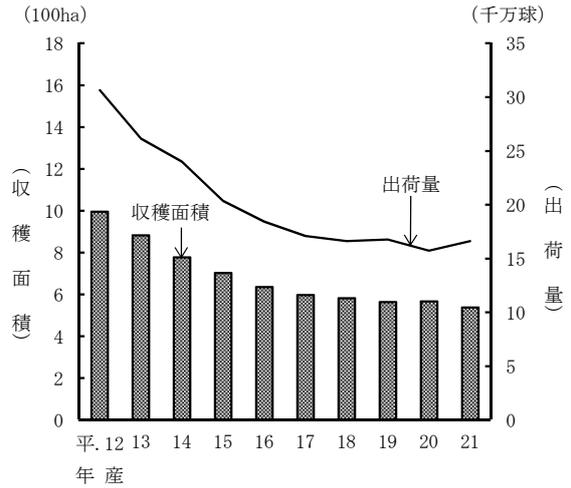


図18 球根類の収穫面積と出荷量の推移



(3) 鉢ものの類

収穫面積は1,870haで、生産者の高齢化等により前年産に比べて93ha（5%）減少した。品目別に見ると、観葉植物、シクラメン、花木類及び洋ラン類が減少した。

出荷量は2億6,880万鉢で、前年産に比べて1,520万鉢（5%）減少した。

なお、品目別にみた出荷量の構成割合は、花木類が18%を占め、次いで観葉植物が16%、シクラメンが8%、洋ラン類が7%となっており、この4品目で全体の約5割を占めている。

表3 平成21年産鉢ものの類の収穫面積及び出荷量（全国）

品目	収穫面積 ha	出荷量 万鉢	前年産対比	
			収穫面積	出荷量
鉢ものの類	1 870	26 880	95	95
うちシクラメン	214	2 110	94	97
洋ラン類	245	1 930	98	98
観葉植物	317	4 270	92	87
花木類	426	4 840	97	93

図19 鉢ものの類の品目別出荷量割合

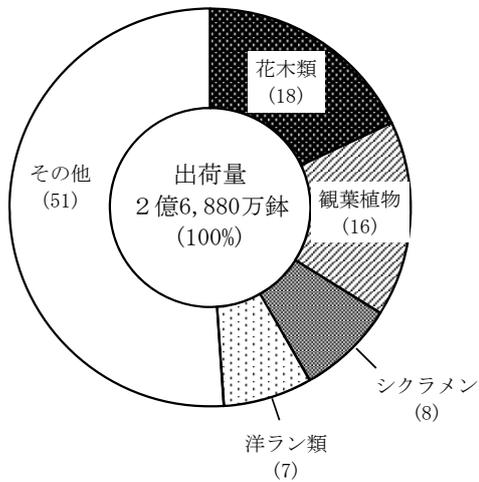
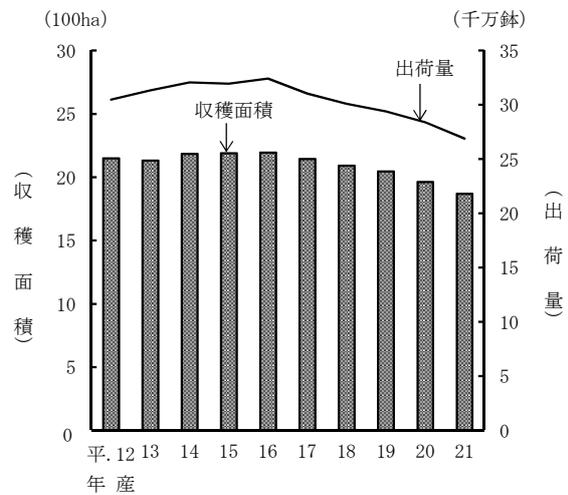


図20 鉢ものの類の収穫面積と出荷量の推移



ア シクラメン

収穫面積は214haで、長野県等で減少したことから、前年産に比べて14ha（6%）減少した。

出荷量は2,110万鉢で、前年産に比べて70万鉢（3%）減少した。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、長野県が14%を占め、次いで愛知県が12%、栃木県が6%となっており、この3県で全国の約3割を占めている。

図21 シクラメンの都道府県別出荷量割合

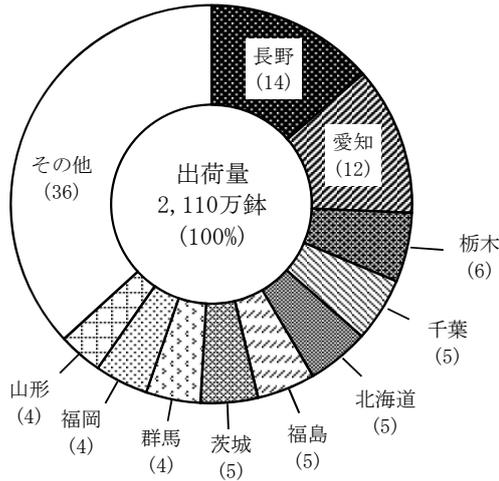
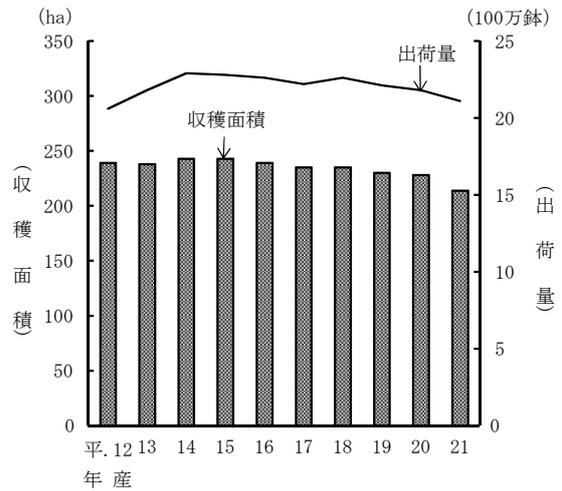


図22 シクラメンの収穫面積と出荷量の推移



イ 洋ラン類

収穫面積は245haで、福岡県等で減少したことから、前年産に比べて6ha（2%）減少した。

出荷量は1,930万鉢で、前年産に比べて30万鉢（2%）減少した。

なお、都道府県別にみた出荷量の構成割合は、愛知県が23%を占め、次いで熊本県が14%、福岡県が9%となっており、この3県で全国の約5割を占めている。

図23 洋ラン類の都道府県別出荷量割合

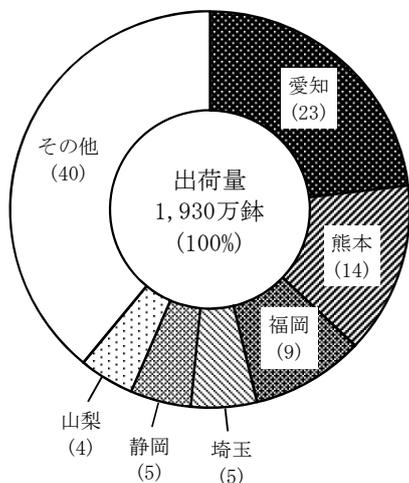
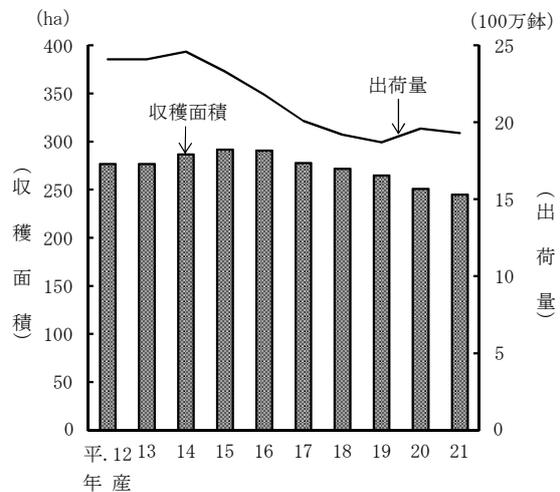


図24 洋ラン類の収穫面積と出荷量の推移



(4) 花壇用苗ものの類

作付面積は1,607haで、生産者の高齢化等により前年産と比べて33ha（2%）減少した。

出荷量は7億7,500万本で、前年産並みであった。

なお、都道府県別にみた出荷量構成割合は、愛知県が10%を占め、次いで千葉県及び埼玉県が8%、福岡県及び奈良県が5%となっており、この5県で全体の約4割を占めている。

表4 平成21年産花壇用苗ものの類の作付面積及び出荷量（全国）

品目	作付面積 ha	出荷量 万本	前年産対比	
			作付面積	出荷量
花壇用苗ものの類	1 607	77 500	98	100
うちパンジー	327	17 670	98	98

図25 花壇用苗ものの類の都道府県別出荷量割合

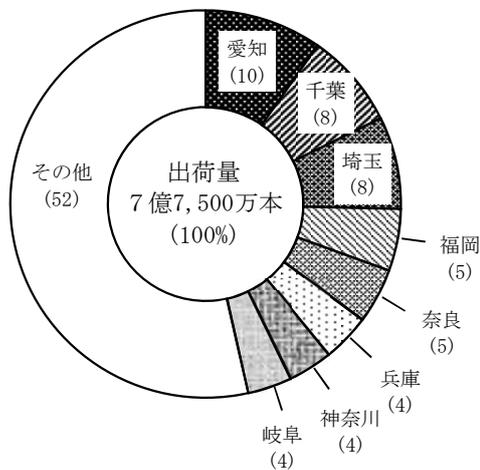
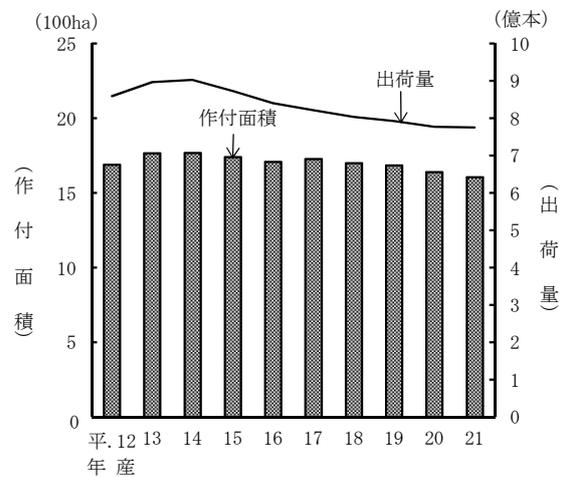


図26 花壇用苗ものの類の作付面積と出荷量の推移



パンジー

作付面積は327haで、愛知県等で減少したことから、前年産に比べて6ha（2%）減少した。

出荷量は1億7,670万本で、前年産に比べて290万本（2%）減少した。

なお、都道府県別にみた出荷量構成割合は、愛知県、埼玉県及び千葉県が7%を占め、次いで奈良県及び神奈川県が6%となっており、この5県で全体の約3割を占めている。

図27 パンジーの都道府県別出荷量割合

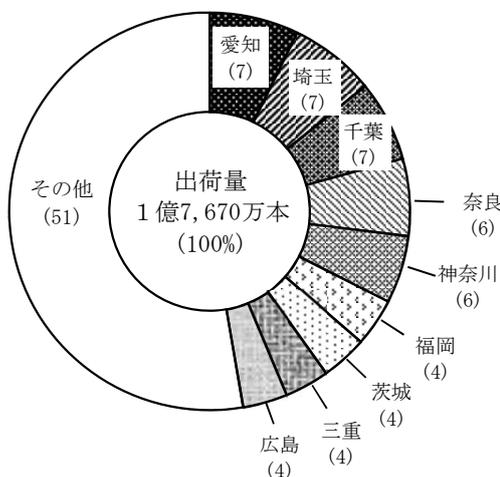


図28 パンジーの作付面積と出荷量の推移

